

第1章

麻薬探知犬の導入

この章では一般の犬が麻薬探知犬になる
までと成田空港の近くにある東京税関麻薬
探知犬訓練センターの足取りや話題をご
紹介します。

1 麻薬探知犬の育成

日本全国の税関に約 130 頭の麻薬探知犬がいて日本への麻薬が密輸入されるのを防いでいます。

麻薬探知犬とはいろいろな麻薬が日本に持ち込まれるのを防止するため訓練された犬のことです。アメリカなど外国ではすでに採用されていましたが、日本の税関にも 1979 年に採用され、その後年々体制を充実し、技術も進歩し最近では年に数十件の麻薬



~~~~~  
を摘発（発見）しています。

社会に害悪を流している麻薬は、殆ど外国から入ってくる密輸入品です。一旦国内へ流れてしまうと、抑えるのがなかなか難しくなります。日本へ入る入口、つまり税関のところで取り締まるのがもっとも効果的なわけです。税関ではいろいろな工夫をして麻薬の密輸入を防ごうとしています。中でも麻薬探知犬は大きな成果をあげています。



（成田空港近くにある麻薬探知犬訓練センター）

(センターで健康チェックやグルーミング(毛並みの手入れ)をします)



## 犬は臭いを嗅ぐ天才

犬はわれわれ人間社会に大変役に立っています。  
盲導犬・警察犬・災害救助犬という言葉はよく聞きます。また体に障害のある人の手足の代わりをしてくれる介助犬もいます。

この本で取り上げている麻薬探知犬も大変役に立っています。犬はとても優れた能力をもっています。特に臭いを嗅ぐのが得意中の得意です。人間の何千倍も何万倍も嗅ぐ能力をもっているといわれています。



( 犬 と の <sup>しんおかんけい</sup> 親和関係  
が大切です )

す。

犬は長い鼻を持っていますね。そこに<sup>ひみつ</sup>秘密があるのです。<sup>はな</sup>鼻の奥にある臭いを感じる<sup>ねんまく</sup>粘膜に空気中の臭いの<sup>ぶんし</sup>分子が触れるからだそうです。人間が臭いを<sup>かんち</sup>感知する<sup>ねんまく</sup>粘膜の面積が切手一枚だとすると、犬の鼻はヒダのようになっていてハンカチくらいの大きさがあるといえます。

だからといって、どんな犬でもすぐに麻薬を探せるかというところではありません。その中でもその<sup>のうりよく</sup>能力が特に高い犬についてさらに<sup>くんれん</sup>訓練を行うのです。麻薬の<sup>にお</sup>臭いを覚え、次にその<sup>にお</sup>臭いがあるところを嗅ぎ出し、人間に伝えます。犬と人間がペアになって、その<sup>くりかえ</sup>訓練を繰り返すのです。ペアになる人のことをハンドラーと呼んでいます。自転車でバランスを取るところをハンドルといえますね。バランスをとり

## 第1章 麻薬探知犬の導入~~~~~

ながら物事を扱う人、という意味でハンドラーというのです。



(これからセンターでの生活です)





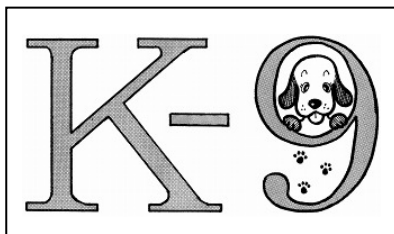
(訓練センターのいろいろな施設<sup>しせつ</sup>)

(最初は慣<sup>な</sup>れる訓練です)



## 訓練は 約 4 ヶ月

一人前の麻薬探知犬になるためには成田空港の近くにある東京税関麻薬探知犬訓練センターで約 4 ヶ月の訓練を行います。大きく分けて 4 つの段階<sup>だんかい</sup>があります。



### 訓練のメニュー

- 第 1 段階 慣れる訓練 4 週間
- 第 2 段階 大麻類発見訓練 8 週間  
〔中間評価〕
- 第 3 段階 <sup>かくせいざい</sup>覚醒剤・ヘロイン等発見訓練 4 週間

#### 〔2 回目の評価〕

- 第 4 段階 現場訓練 2 週間

現場訓練の後、麻薬探知犬として認定できるかどうか最終的に判断されます。

(発見訓練には、基本・応用・<sup>じゅくたつ</sup>熟達訓練があり、  
だんだんと能力を向上させていきます。)



(訓練センターには船のタラップ  
に似た階段もあります)



## 第1段階 慣れる訓練 <4週間>

まずは、慣れるための訓練です。正式には馴致訓練<sup>じゅんち</sup>といっています。麻薬探知犬となって外国貨物を検査することになれば、いつも平らなところばかりとは限りません。背より大きな外国貨物があったり、外国貿易船を検査する場合には、タラップという揺れる階段<sup>ゆ</sup>を登っていかねばなりません。下を見て恐れてはいけません。つまり、これからいろいろな職場に慣れる訓練をするのです。このために大体 4 週間をかけます。

### 何故発見するようになるの？

ところで犬はどうして麻薬を発見するようになるのでしょうか。

麻薬探知犬は麻薬中毒<sup>ちゅうどく</sup>にかかっているから麻薬を見つけるのだという人がいますが、そのようなことは絶対にありません。では、どうして麻薬を見つけようとするのでしょうか。犬は獲物<sup>えもの</sup>を見つけようとする本能を持っています。その「獲得欲<sup>かくとくよく</sup>」という本能をうまく利用するのです。その方法としてタオルをたたんできつく巻いたものを使っています。これ



を「ダミー」と呼んでいます。ダミーとは「<sup>ひょうてき</sup>標的」  
とか「にせもの」という意味があります。日頃の訓  
練ではこのダミーを見つけるとうんと褒めてあげま  
す。そしてハンドラーは犬とダミーの引っ張りあい  
などをして遊んであげます。この遊びが麻薬探知犬  
にとって何よりも楽しく嬉しいご褒美<sup>ほうび</sup>であることを  
覚えさせます。

このダミ  
ーを見つけ  
られるよう  
になっ  
たら、次の段  
階で、ビニ  
ールに入っ  
た麻薬を綿  
製の袋に入  
れます。



**(一緒に遊ぼう！)**

これをダミーと結びつけ、遊んであげることで、  
ダミーと麻薬の臭いを関連付けて覚えるようになります。  
そして麻薬を見えないところに隠すと、その  
臭いのあるところにダミーがあると思い、一生懸命  
探すようになるのです。

## 第2段階 大麻類発見訓練 <8週間>

次は大麻類の発見訓練です。検査の場所はいろいろです。

麻薬はどこに隠されているか判りません。<sup>わか</sup>海外<sup>かいが</sup>旅行者<sup>りょこうしや</sup>のスーツケースの中ばかりとは限りません。<sup>かぎ</sup>服のポケットに入っているかもしれません。港に降ろされた外国貨物やコンテナの中にあるかもしれません。訓練では草の中に隠した麻薬を探す訓練もします。訓練が進んでいくと、壁に隠してある麻薬を探す訓練や自動車に隠された麻薬を探す訓練もします。訓練センターには訓練のための古い自動車もたくさん用意されています。

訓練は発見しやすい簡単な基本訓



練から始まり、応 **(大分慣れてきました)**

用訓練・熟達<sup>じゅくたつ</sup>訓練へと進んでいきます。



(訓練センター内で麻薬を見つける訓練)



例えば、基本訓練では麻薬を背の高い草の中へ隠しておいてそれを探させたりするのです。

## 第1章 麻薬探知犬の導入〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

最初は難しいのですが、何回も何回も繰り返し練習を続けるとできるようになります。訓練の秘訣<sup>ひけつ</sup>は、麻薬を発見できれば引っ張り合いっこをしてもらえるんだということを強く思うかどうかにかかっています。そう思えるようになれば成功です。

ただし、後に述べますように、犬にも適性<sup>てきせい</sup>がありますので、発見能力がより高い犬が麻薬探知犬として採用されます。応用訓練では訓練センター内にある訓練施設を使用して、壁面や車両の外部、内部に隠した麻薬を探させる訓練をします。





(車に隠された麻薬を探す訓練)



きかい くれ けっ  
(危害を加えることは決してありません)

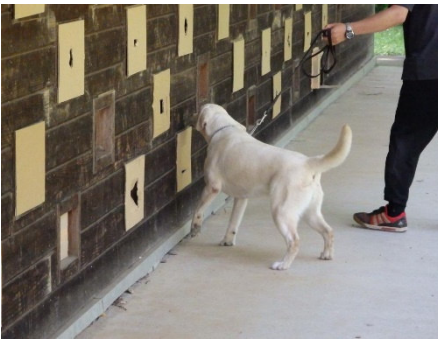
## 第1章 麻薬探知犬の導入~~~~~



(ハンドラーは訓練の過程<sup>かてい</sup>でいろいろと分析<sup>ぶんせき</sup>をし、  
これからの参考<sup>さんこう</sup>にします)

熟達<sup>じゅくたつ</sup>訓練では、これまでのセンター内での訓練を生かすため、実際に外国貨物が置かれている倉庫や旅客手荷物検査場などに行って訓練をします。

この大麻類発見訓練は最も長く8週間かけて行います。



(壁に隠されている麻薬を探す訓練)



## 中間評価

比較的小さい<sup>にお</sup>臭いの強い大麻類を発見する訓練が終わったら、中間の評価を行います。犬にも個性があります。これまで 8 週間かけて訓練してきて、麻薬探知犬の<sup>てきせい</sup>適性(向いているかどうか)が高いかどうか中間評価をするわけです。

適性がより高い犬が選ばれます。

麻薬探知犬としては、執着力<sup>しゅうちやくりよく</sup>がある、負けず嫌い<sup>ぎら</sup>であるなどの性格が必要です。クンクンとはじめは一生懸命嗅いで、その後すぐそっぽを向いて興味<sup>きょうみ</sup>を示さなくなったのでは麻薬探知犬としては失格です。

次のような適性が必要といわれています。

- ① 動くものに対して興味を示す
- ② 物を投げると、くわえて持ってくる
- ③ 持ち帰ったものに対する独占欲<sup>どくせんよく</sup>が強い
- ④ 人見知りをしない
- ⑤ 行動が積極性<sup>あふ</sup>に溢れ、生き生きとしている
- ⑥ どんな場所でも恐れない



(家具の検査訓練)



ゆうびんぶつ  
(郵便物の検査訓練)

## 第3段階

### かくせいざい 覚醒剤、ヘロインなど発見訓練 <4週間>

いよいよ第3段階目。中間評価に合格した犬は、次の段階として、<sup>かくせいざい</sup>覚醒剤・ヘロイン・コカインなどの比較的臭いの少ない麻薬類の探知訓練を4週間行い、その後2回目の評価を行います。

### 2回目の評価

## 第4段階 現場訓練 <2週間>

いよいよ最終段階。2回目の評価に合格した犬は実際の検査現場において2週間の実地訓練を行い、最終的な見極めが行われます。

このようにして全ての訓練が終わると<sup>せいせきゆうしゅう</sup>成績優秀な犬は麻薬探知犬として認定します。

麻薬探知犬訓練センターで認定証が出されますが、実際に活躍する場所は全国の空港や海港などです。全国の麻薬探知犬は全てこのセンターの<sup>そつぎょうせい</sup>卒業生なのです。



## 犬の祖先<sup>そせん</sup>

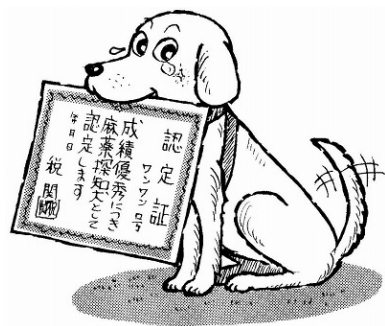
こんなに人間と親しい仲の犬ですが、祖先はまだはっきり分からず、犬の祖先と思える化石も見つかっていないそうです。

<sup>おおかみ</sup>狼が犬の祖先という有力な説があるそうです。頭の骨の形や、体の臭い、しっぽのふり方やほえ方もよく似ており、<sup>む</sup>群れで生活するところも同じです。でも狼は犬よりきばも足も比べ物にならないくらい大きく長い。しかも、最も大きな違いは、狼は自分から人間に近づかないことだそうです。



(よく<sup>がんば</sup>頑張ってきたね！)

## 第1章 麻薬探知犬の導入~~~~~



### 麻薬探知犬認定証



(さあ これから!)



## 「中村敦夫<sup>あつお</sup>の地球発 22 時」からのメッセージ

麻薬探知犬体制が始まって間もない 1985 年、テレビで麻薬探知犬の活躍が取り上げられました。番組の中で、中村敦夫がすばらしいメッセージを出していますが、それは麻薬探知犬の優秀性<sup>ゆうしゅうせい</sup>をよく表わしています。ご紹介しましょう。

「空港という所は、航空機はもとより離発着システムなど全てにハイテク機器が集約されている所です。そんな中で、犬の臭覚という最も原始的な手段を活用して薬物<sup>そうさ</sup>を捜査するというこのミスマッチが面白いと思いませんか。

薬物を機械で捜査することは現在の科学なら不可能な事ではないと思いますが、犬の場合はどんな巨大・重量貨物でも、どんな形の貨物でも、どこにある貨物でもそこへ犬が行くことによって、短時間でしかも確実に検査できるので。実に優秀でかつ安価<sup>あんか</sup>な検査機器なのです。これからは、もっと麻薬探知犬の働く場所は拡大していくでしょう。」

## アグレッシブドッグとパッシブドッグ

麻薬を発見した時に、ハンドラーにその合図をする犬には2種類のタイプの犬がいました。

麻薬の臭いがする場所を引っ掻く犬と、臭いがする場所に座って知らせる犬です。引っ掻く犬をアグレッシブドッグ（英語で攻撃的・積極的の意味）と座る犬をパッシブドッグ（英語で受動的の意味）といいます。

最初はアグレッシブドッグだけでしたが、入国旅客の身につけているものを検査するためパッシブドッグが採用されました。入国検査場（入国旅行者の手荷物を検査する場所）にいるお客さんに決して噛みついたりほえたりはしません。麻薬の臭いがするとただ座って合図するだけです。現在は引っ掻く訓練はやめて、すべて座るように訓練されたパッシブドッグが活躍しています。

パッシブドッグは、もともとは、軍用に開発された方法です。爆発物を探すのに攻撃的に引っ掻いたりするのは危険なので、座って合図をするように教育したのだそうです。



アグレッシブドッグ(上)  
とパッシブドッグ(下)



(オーストラリア税関)



## 2 麻薬探知犬の<sup>たいせい</sup>体制

### 増え続ける麻薬の密輸入を防ぐ対策

麻薬探知犬は 1979 年 6 月にアメリカ税関の協力を得て取り入れたのが始まりです。第 1 号もアメリカから来たものです。名前はユーコン号といいます。さすがよく<sup>かつやく</sup>活躍しました。アメリカからは他に、シェイマス号・リーファ号・サイアム号の 3 頭が<sup>てだす</sup>手助けしてくれました。その後、麻薬探知犬の<sup>どうにゅう</sup>導入は大きな効果があったことから、国内で訓練育成することになりました。1993 年には入国検査場で使用できるパッシブドッグが<sup>どうにゅう</sup>導入されました。

日本の麻薬探知犬の歴史は 40 年以上になりますが、今では約 130 頭が全国の税関に配置され、空港や海港などで活躍しています。





(信頼しあう ツーショット)



(麻薬探知犬を運ぶ専用の車)

## 第1章 麻薬探知犬の導入~~~~~

これまでの歴史は次の表の通りです。

### 麻薬探知犬訓練センターの歴史

| 年 月               | 内 容                                                      |
|-------------------|----------------------------------------------------------|
| 1979.3            | 東京税関に麻薬探知犬導入準備<br>室の設置 <sup>じゅんび</sup><br><sup>せっち</sup> |
| 1979.6            | 麻薬探知犬チームの編成 <sup>へんせい</sup>                              |
| 1979.6~<br>1980.1 | 麻薬探知犬をアメリカから導入                                           |
| 1980.9            | 国内で麻薬探知犬の育成を開始                                           |
| 1981.4            | 国内犬の麻薬探知犬認定第1号                                           |
| 1987.10           | 麻薬探知犬訓練センター開設                                            |
| 1989.11           | 初の女性ハンドラー誕生                                              |
| 1993.9            | 場内犬(パッシブドッグ)導入                                           |
| 2001.12           | 麻薬探知犬育成に貢献し、人事<br>院総裁賞を受ける                               |
| 2002.5            | 爆発物探知犬の導入                                                |
| 2009.4            | 銃器探知犬の導入                                                 |



## 爆発物探知犬の登場

皆さんは 2001 年に起きたニューヨークのビル破壊事件<sup>はかいじけん</sup>をご存知ですか。同時多発テロ<sup>どうじたはつ</sup>とよばれています。あれ以後、世界はテロに対する警戒<sup>けいかい</sup>が一段と厳しくなりました。爆発物探知犬<sup>ばくはつぶつ</sup>も登場することになります。

爆発物探知犬を育成する方法は、基本的には麻薬探知犬と同じです。麻薬の臭いの変わりに爆発物の臭いを覚えさせるのです。ただ爆発物は麻薬と違って、現物<sup>きんぶつ</sup>に触ると何が起こるか分かりません。その分慎重<sup>しんちょう</sup>にしなければなりません。

2002 年、日本の税関でも爆発物探知犬を導入することにしました。サッカーのワールドカップに向けて成田空港に配置されました。



(楽しいダミーの  
引っ張り合い)

## 第1章 麻薬探知犬の導入~~~~~

日本には、税関が9つあります。そしてこれらの税関の下に約200ヶ所の支署や出張所があります。麻薬探知犬はこういう場所で麻薬摘発のため活躍しています。



（人々のために役立つ  
犬の代名詞 K・9）

現在、麻薬探知犬として使われている犬の種類は、主にジャーマン・シェパード及びラブラドル・リトリバーの2種です。特に犬の種類は決まってい<sup>し</sup>ないのですが、犬の特徴や性格などから自然に種類が絞られてくるようです。麻薬探知犬1頭にハンドラーが専<sup>せんぞくてき</sup>属的に1人つき、ペアーを組みます。その他に、ハンドラーの指導に当たるインストラクターや新しい麻薬探知犬を育てる育成を担当する人、外国との情<sup>じょうほうこうかん</sup>報交換や指導を行う人たちがいます。

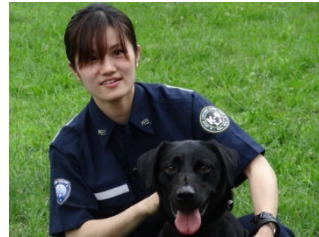


## ハンドラーインタビュー

影山 理子

問：麻薬探知犬カカ号とペアを組んでからどのくらいの期間になりますか。また、麻薬探知犬カカ号は、どのような性格、特徴ですか。

答：カカ号とは、私がハンドラーになった年からペアを組んでいますので、3年になります。黒のラブラドル・レトリバーのオスで、2007年10月生まれの7歳です。好奇心旺盛、とても人懐こく甘えん坊な性格で、検査の際には『僕が見つかるぞ!』といわんばかりに意欲的に貨物を嗅ぎまわる強い自主性を見せてくれます。



問：影山さんが麻薬探知犬の業務を担当することになったきっかけは。

答：税関に入関する前から麻薬探知犬のハンドラーには興味がありました。採用研修中に成田の麻薬探知犬訓練センターを見学した際、麻薬探知犬とハンドラーが一体となって楽しそうに業務を行っている姿を見て、自分もやってみたいと強く思い、配属を希望しました。まさか入関2年目にしてハンドラーになれるとは思っていませんでしたので、人事異動の内示があった時はとても驚きました。

問：影山さんは税関に就職される前から麻薬探知犬のハンドラーになることを希望されていたのですか。

答：はい、希望していました。小さな頃から犬に関わる仕事に興味があり、就職活動の際、税関のホームページで麻薬探知犬のハンドラーの仕事を知りました。その後、税関の業務説明会で麻薬探知犬のハンドラーの方から業務内容を聞く機会があり、女性ハンドラーも活躍していることを聞いて更に興味を持ちました。

問：麻薬探知犬のハンドラー業務で楽しかったこと、大変だったことは。

## 第1章 麻薬探知犬の導入～～～～～～～～～～～～～～～～～

答：楽しかったことは、小学校などに赴いて不正薬物乱用防止を啓発するために麻薬探知犬のデモンストレーションを行ったことです。麻薬の臭いを付着させた箱を生徒に配置してもらい、麻薬探知犬が鼻を頼りに箱を見つけ出すのですが、見事にカカ号が箱を突き止めた際には、生徒の皆さんが歓声をあげて喜んでくれてとても楽しかったです。

大変だったことは体力作りです。慣れもありますが、担当犬と検査を行い、次の検査意欲につなげるためにも全力で犬と遊ぶ必要があります。

遊ぶ時は、タオルを棒状に巻いたダミーを咥えさせ引っ張り合ったりするのですが、犬はダミーを取られたくないため強い力で引っ張ります。

ハンドラーは、冬場でも汗をかくほど激しく動き回る必要があるため、女性の私には体力と筋肉をつけることが大変でした。(笑)

問：アピールしたいことがあれば、追加して下さい。

答：カカ号の名前の由来は、当時、世界で活躍していたブラジルの有名サッカー選手と同じ名前ですが、カカ選手のように意欲的にゴール前に飛び込んで得点を挙げる(麻薬を発見する)ようにと名付けられました。



カカ号は、これまでに国際郵便物などに隠匿されていた不正薬物を数多く発見しており、横浜税関に配備された歴代の麻薬探知犬のなかでもトップクラスの成績を挙げている優秀な相棒です。

これからもカカ号とともに不正薬物の流入を水際で防ぎ、国民の安全・安心な社会を守るため、頑張っていきたいです。



## 人事院総裁賞を受ける

東京税関の麻薬探知犬訓練センターは 2001 年 12 月、役に立つ麻薬探知犬を育成し、その<sup>こうけん</sup>貢献は大きかったとして、人事院<sup>そうさいしょう</sup>総裁賞を受けました。

1979 年、何もない状態からアメリカに 4 人の税関職員が出発し、<sup>しどう</sup>指導を受けたのが始まりです。それから 20 年がたち立派に麻薬探知犬を育て上げました。この賞はその育成の功績をたたえるものでした。

当初は何から何まで初めてのことで、麻薬探知犬候補の犬探し、訓練のための麻薬の確保、発見の技術開発など大変な苦勞の連続でした。



人事院総裁賞受賞  
平成13年12月